製作の喜びを味わい、生活をよりよくしようとする実践的な態度の育成

――― 第５学年「はじめてみようソーイング」の実践を通して ―――

八幡浜支部

１　研究の視点

(1)　子どもの気付きを生かし、実生活との関連を図った問題解決的な学習の工夫

(2)　継続的な実践を促す工夫

２　実践事例

(1)　題材名　　「はじめてみようソーイング」

(2)　目標

○　生活の中で使われている身近な小物に関心をもち、針と糸を使って意欲的に製作しようとする。

○　手縫いやボタン付けなどの基礎的 ・ 基本的な知識や技能を生かして、工夫しながら小物作りの計画を立てたり、製作したりすることができる。

○　小物作りを通して、目的に応じた簡単な縫い方で縫ったり、用具を安全に扱ったりすることができる。

○　製作に必要な用具の扱い方、ボタン付けや手縫いの必要性と方法が分かる。

(3)　題材設定の理由

○　本学級は、男子５名、女子１０名、計１５名で構成されており、初めて学習する家庭科に対する興味・関心は高い。本題材に関わるアンケートを実施したところ、以下のような結果になった。

1　家族の一員としてしている仕事はあるか。 （内容）　皿洗い13人　洗濯物たたみ12人　風呂掃除７人　米研ぎ４人　料理３人	ある　15人	ない　０人
2　裁縫をしたことがあるか。 （内容）　刺繍　　飾り付け　ボタン付け	ある　８人	ない　７人
3　家族が裁縫しているのを見たことがあるか。	ある　15人	ない　０人
4　布で作った物にどんなものがあるか。	手さげぶくろ　箸入れ　クッション	
5　手作りの布製品のよさは何か。	かわいい　エコ　温かみがある	
6　お気に入りの服が破れたらどうするか。	捨てる７人　直してもらう　６人 そのまま使う　２人	
7　針と糸を使って何か作ってみたいか。	はい　15人	いいえ　０人

調査結果から、本学級の児童は家庭生活において自分のできることには積極的に取り組んでいると考えられる。「裁縫の経験がある」と答えた児童の中には、「ボタン付けをした」という修繕に関するものが含まれていた。しかし、「お気に入りの服が破れたらどうするか」という質問に対しては、「捨てる」と答えた児童が７名もいた。児童を取り巻く社会は、物が溢れ、欲しい物が簡単に手に入るため、「修繕して使う」という考えより、「新しい物を買えばよい」という考えが強い。児童にとって、「長く大切に使う」というような、物に対する愛着がなくなりつつあるように思われる。

また、裁縫の経験がある児童は８名いるものの、針と糸に触れる経験は少なく、初めて裁縫をする児童も半数いることから、作る楽しさを味わわせながら、小物を手作りするよさに気付かせるとともに、手縫いに関する基礎的・基本的な技能や生活をよりよく工夫しようとする態度を身に付けさせる必要がある。

○　本題材は、学習指導要領の内容「（３）生活に役立つ物の製作　ア　布を用いて製作する物を考え、形などを工夫し、製作計画を立てること　イ　手縫いやミシンを用いた直線縫いにより、目的に応じた縫い方を考えて製作し、活用できること　ウ　製作に必要な用具の安全な取扱いができること」を受けて設定している。本題材では、裁縫用具に関する基礎的な知識を身に付け、小物作りなどを通して、手縫いの基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けることをねらいとしている。簡単な小物を自分らしく作る活動を通して、作る楽しさを実感し、習得した技能を生かす喜びや自信を抱くようにすることもできる。そういった喜びや自信が、家庭科の目標である「生活をよりよくしようとする実践的な態度の育成」につながると考える。

(4)　指導と評価の計画（全１０時間）

時間	ねらい	学習活動	評価規準・評価方法			
			関心・意欲・態度	創意工夫	技　能	知識・理解
1	裁縫用具の名前や安全な使い方を知る。	裁縫用具の種類と使い方、安全な取り扱い方について調べる。				裁縫用具の名前や安全な使い方が分かる。（発言・ワークシート）
2	手縫いに関心をもち、玉結び・玉どめをする。	針に糸を通し、玉結びや玉どめをし、アジサイの花びらを作る。			針と糸を通し、玉結び・玉どめができる。（行動観察･作品）	
3	手縫いに関心をもち、用具を安全に使って簡単な縫い方ができる。	基本の縫い方（なみ縫い、返し縫い、かがり縫い）の練習をする。			基本の縫い方ができる。（行動観察･作品）	
4 5	ボタン付けをする。 にこにこネームプレートを作る。	ボタン付けの仕方を知り、練習する。基本の縫い方を使って、にこにこネームプレートを作る。	針と糸を使って意欲的に製作しようとしている。（行動観察）		ボタン付けができる。（行動観察･作品）	
6	小物作りの製作計画を立てる。	作りたい小物の計画を立てる。		工夫しながら小物作りの製作計画を立てている。（ワークシート・発言）		
7 本時 8 9	製作計画を見直し、学習した縫い方を活用して、製作計画に従って製作する。	小物を作る。	製作に必要な材料や用具などを準備し、製作しようとしている。（行動観察） 針と糸を使って意欲的に製作しようとする。（行動観察）	手縫いにより、目的に応じた縫い方を考えたり、自分なりに工夫したりしている。（行動観察・作品）（付箋紙・ワークシート）	目的に合った縫い方で小物を作ることができる。（行動観察・作品）	手縫いによる簡単な縫い方を理解している。（行動観察・ワークシート・発言）
10	活動を振り返り、これからの生活に生かそうとする。	作った小物を発表する。		自分のできることを生活に生かそうとしている。（発言・ワークシート）		

(5)　本時の指導

ア　小題材名　小物を作ろう

イ　目標　　学習した縫い方を活用して、自分の作りたい小物を製作計画を立てて製作する。

ウ　本時の指導について

本時は、今まで身に付けた知識や技能を使って、小物作りの計画を立て、製作する。前時の学習ではワークシートを利用して製作の手順やデザインを考えさせ、紙で試作させることで、製作の見通しをもたせた。本時は、それぞれが立てた計画を「じょうぶさ・見た目のよさ・使いやすさ」の３つの観点から友達同士で見直し、よりよい計画に改善する。お互いのよさを認め合うことで、小物作りへの意欲と自信を高めたい。また、製作にあたっては、スモールステップを取り入れ、経過発表を毎時間行う。毎時間、製作の見直しを行うことで、よりよい作品を製作できるようにしたい。材料については、①裁ちやすい、②ほつれにくい、③厚みがあり針を通しやすく縫いやすいといった特徴のあるフェルトを使用させることで、裁縫の経験が少ない児童でも製作しやすいようにした。フェルト２枚は教師が用意し、製作に必要なその他の材料や用具は、児童がそれぞれで用意することにした。

エ　準備物　裁縫用具、作品見本、縫い方見本、示範動画、フェルト、ワークシート、付箋紙

オ　展開

学習活動	○主な発問　・予想される児童の反応	○指導上の留意点　◎評価
1　本時のめあてを知る。	小物作りの計画を見直し、製作しよう。 ・お気に入りの小物を早く作りたいな。 ・計画どおりに作れるといいな。 ・うまくできるかな。	○　一人一人のアイデアを大切にし、本時の学習に対する意欲を高める。
2　製作計画を見直す。 (1) グループ	○　グループで自分の計画を発表し、アドバイスをしよう。 ・なみ縫いより返し縫いの方がじょうぶだよ。 ・もう少し大きくする方が物が入りやすいよ。	○　互いのよさを見つけたり、改善した方がよいところなどを出し合ったりしながら意見交換させる。 ○　よい点やアドバイスをじっくり考えることができるように、事前に自分の考えを、付箋紙に書かせ

	・糸色を変えた方がかわいい。	ておく。 ○　見直しのポイントを掲示する。 じょうぶさ……縫い方 見た目のよさ…縫い目・色 使いやすさ……形・大きさ
(2) 個人	○　友達のアドバイスをもとに、計画を見直そう。 ・じょうぶにするために、縫い方を変えよう。 ・ボタンをかわいく使おう。	○　話し合ったことをもとに製作計画を決定させる。 ○　意見交換の内容を参考にして、製作計画を修正させたり、付け加えさせたりする。 ◎　目的に応じた縫い方を考えたり、自分なりに工夫したりしている。 （創・工/付箋紙・ワークシート）
3　小物作りをする。 (1) 小物作り	○　製作計画に従って小物作りをしよう。 ・チャコえんぴつで印を付ける。 ・フェルトを裁つ。 ・なみ縫いをする。	○　手順を確認させながら製作させる。 ○　縫い方が分からない児童には、動画をいつでも活用できるように準備しておく。 ○　あらかじめ一人一人の計画表を確認しておき、個に応じた声掛けをする。 ◎　目的に合った縫い方で小物を作ることができる。 （技/行動観察・作品）
(2) 片付け	○　使った針を確認し、片付けをしよう。	○　使った針があるか確認する。
4　小物作りの経過を発表する。	○　友達の小物作りの経過を聞こう。	○　小物作りで工夫している児童を意図的に指名して発表させ、他の児童の参考にさせる。
5　本時のまとめをする。	○　振り返りシートに活動の反省を書き、発表しよう。	○　振り返りを交流させることにより、次時の学習への意欲を高める。

(6)　活動の実際

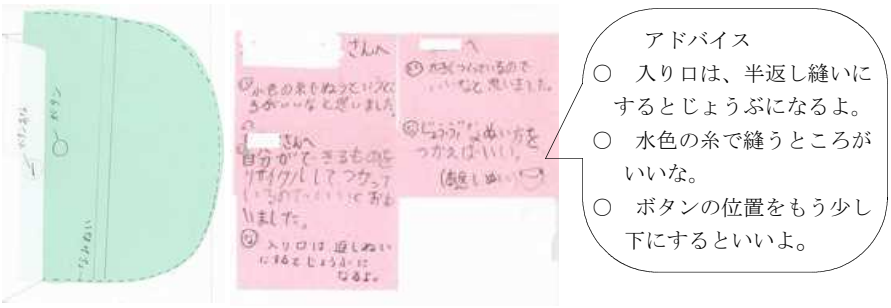
ア　子どもの気付きを生かし、実生活との関連を図った問題解決的な学習の工夫

(ｱ)　製作計画の見直し

まず、自分の作りたい小物をデザインし、実際に紙で製作させ、縫い方も記入させた後、グループで互いの計画の見直しを行った。デザインした物を紙で作ることにより、でき上がりの大きさに縫いしろを加えなければならないことに気付いたり、出し入れにはゆとりが必要であることに気付いたりすることができた（資料１）。

その後 グループごとで自分の小物作りの計画を発表し、アドバイスし合う活動を取り入れた（写真１）。自分の言葉で、製作計画を発表することにより、製作の手順を確認することができた。また、友達の発表の中から自分の作品作りに生かせることを見つけたり、友達からのアドバイスをもらったりすることにより、問題点を解決することができた。

〈写真１　グループ活動〉



〈資料１　紙で作った小物とアドバイスカード〉

(ｲ)　自己評価や相互評価

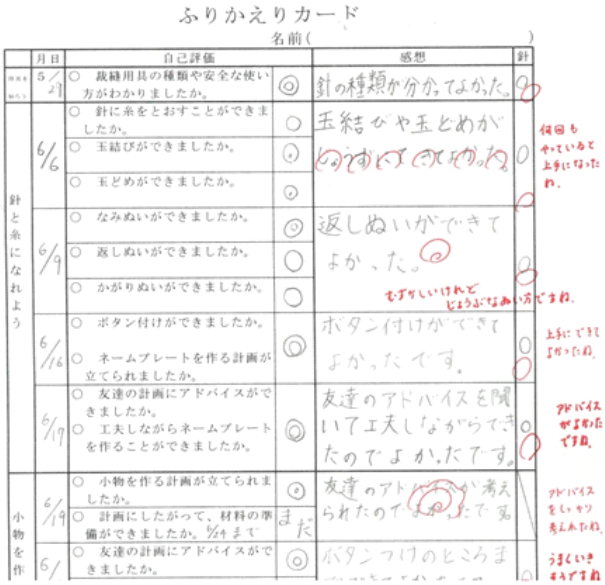
授業後に「ふりかえりカード」（資料２）に評価と感想を書かせた。活動を振り返ること

が活動の見直しとなり、次時の活動のヒントにもなった。また、授業の最後に、自分の活動の経過を発表させる場をもった(写真２)。工夫しながら製作している児童を意図的に指名し、作品を実際（写真３）に実物投影機で見せながら発表させることで、他の児童の参考にさせたところ、たくさんの気付きが見られた。

〈写真２　経過発表〉

「じょうぶにするために、本返し縫いをして、縫い合わせました。」

〈写真３　作品〉



ふりかえりカード

名前（　　）

	月日	自己評価		感想	針
目当て 知ろう	5/23	○ 裁縫用具の種類や安全な使い方がわかりましたか。	◎	針の種類が分かってよかった。	○
針と糸になれよう	6/6	○ 針に糸をとおすことができましたか。	○	玉結びや玉とめが	○
		○ 玉結びができましたか。	○	うまくいかなかった。	○
		○ 玉とめができましたか。	○		
	6/9	○ なみぬいができましたか。	◎	返しぬいができてよかった。	○
		○ 返しぬいができましたか。	○		
		○ かがりぬいができましたか。	○		
	6/16	○ ボタン付けができましたか。	◎	ボタン付けができてよかったです。	○
		○ ネームプレートを作る計画が立てられましたか。			○
	6/19	○ 友達の計画にアドバイスができましたか。	◎	友達のアドバイスを聞いて工夫しながらできたのでよかったです。	○
		○ 工夫しながらネームプレートを作ることができましたか。			○
小物を作	6/19	○ 小物を作る計画が立てられましたか。	○	友達のアドバイスを考えられたのでよかったです。	
		○ 計画にしたがって、材料の準備ができましたか。	まだ		
	6/	○ 友達の計画にアドバイスができましたか。	◎	ボタンつけのところま	○

何回もやっていると上手になったね。

むずかしいけれどじょうぶな縫い方ですね。

上手にできてよかったね。

アドバイスがよかったですね。

アドバイスをしっかり考えられた。

うまくいきそうですね

〈資料２　ふりかえりカード〉

イ　継続的な実践を促す工夫

(ｱ)　製作した物を使ってみての振り返り

作品を製作した後、評価をして持ち帰らせ、実際に使ってみて振り返りをさせた。仕上がった作品を、日常生活で活用することで初めてどんな縫い方がよかったかに気付いたり、手作りのよさを味わったりして、授業で習ったことを生かして家でも作るなど、次への意欲につなげることができた。ただ、フェルトの特性を生かした小物の製作になるよう、洗濯をしなければいけないものは計画の段階でアドバイスをすべきであったと反省した。

〈写真４　はし箱入れ〉

＜児童の感想＞

- ティッシュケースを作ったが、気に入ったので、家でもう一つ作ってみた。
- ボタンの穴が大きすぎたので、もう少し小さくすればよかった。
- 弟にマスコットをプレゼントしたら、喜んでもらった。
- はし箱入れを作ったが、洗濯をすると、なみ縫いのところがほどけてきた。はし箱の出し入れをするので、じょうぶな縫い方で縫えばよかった。

(ｲ)　製作した物の活用

製作した物への思いを大切にするため、製作した作品をできるだけ活用した。例えば、「玉どめ・玉結び」の学習では、あじさいの花を作った。それぞれの作品をクラスの一つの作品として背面に掲示した（写真５）。みんなの作品が一つになることにより、児童は達成感を味わうことができた。また、にこにこネームプレートも、授業の中で発表等に活用した（写真６）。

〈写真５　あじさい〉

〈写真6　にこにこネームプレート〉

３　成果と課題

製作にあたり、児童が自分の製作目的や課題を確認しながら学習できるように「ふりかえりカード」などで工夫した。また、製作の過程で友達同士で確認や評価をすることで、計画の修正や見直しができ、作品作りに生かすことができた。さらに、製作した作品を活用することで、手作りのよさに気付いたり、ボタン付けなど身に付けた技能を生かしたりすることができた。今後も学ぶ喜びを味わわせながら、生活をよりよくしようとする生きる力につながる家庭科の大切さを感じさせていきたいと思う。